

# ピアノデュオ ドウオール

## ～藤井隆史 & 白水芳枝～ リサイタル

～連弾ピアノの極み～



©武藤 亮

### プログラム

1. ラヴェル: 「マ・メール・ロア」  
・取りの森の美女バヴァース  
・他、全5曲

2. モーツァルト: ソナタ ハ長調 K.19d

3. ショパン: 変奏曲 二長調 (エキエル補遺)

＜レーマの巻(ヴェニスの前内巻)の主題による＞

4. 竹内邦光: 揺 曳(ようえい)

昭和52年度(1977)  
文化庁芸術祭参加公演 委嘱作品

5. サン＝サーンス: 「動物の楽園祭」

・序奏と堂々たるライオンの行進  
・他、全14曲

2015年6月28日(日) 14:30開演(14:00開場)  
志木ふれあいプラザ (フォーシーズンズ志木8階、マルイファミリー志木)

チケット料金 前売り ¥1,500 当日 ¥1,700 (高校生以下 ¥600)

【主催・お問い合わせ・予約】

志木音楽鑑賞会 Tel/Fax: 048-471-1473 email: Sachiko.umemoto@me.com

携帯: 090-7704-4141 (梅本)

協賛: NPO 法人志木の輪 協力: 及川音楽事務所

<チケットのご購入>

コミュニティ 305 (志木ニュータウンベアモール酒店街2階) Tel: 048-475-0236

郵送をご希望の場合(下記口座に、チケット料金をお振込ください)

郵便振込口座: 00120-6-280031 口座名: 志木音楽鑑賞会



# 「ピアノデュオ ドゥオール」

2004年、ドイツマンハイムにて藤井隆史・白水芳枝により結成された。以後、ロンドンの他、シューベルト(チェコ)、ドラノフ(アメリカ)などでの国際的賞、青山財団バロックザール賞等を受賞するなど、国内外で450回を超えるステージ数を重ね、1台4手連弾及び2台ピアノによる演奏を活動の中心として高い評価を得ている夫妻デュオである。

2006年、拠点を日本に移し、2014年には結成十周年を迎えた。これまでリリースした4枚のCDは、雑誌「レコード芸術」で全て特選盤・準特選盤となり、また、2008年に行った東京でのリサイタルが文化庁芸術祭参加公演に選出されるなど諸々の演奏活動に対して、「音楽の友」誌や他の専門誌で、年間の「コンサート・ベストテン」「音楽ベスト5」「今、最も旬な日本人演奏家」などにあげられている。

「ピアノデュオ・ドゥオール」は、現在、最も若々しく輝き、優れた演奏活動を行っている常設のピアノデュオである。

## 藤井 隆史 (ふじい たかし) Takashi Fujii

千葉県出身、東京芸術大学付属音楽学校・同大学卒業、同大学院修了、同時にベーゼンドルファー賞受賞。文化庁在外派遣研修員としてマンハイム音楽大学および同大学院に留学し、ピアノ・ソロ及びピアノ・デュオ科を最優秀の成績で修了。ドイツ国家演奏家資格を取得。5歳よりピアノを始め、12歳で香港パン・アジアフィルと共演してデビュー。ピティナ・コンペティション銀賞受賞、NHK洋楽オーディション合格。フランス及びイタリアで4つの国際コンクールでそれぞれ第2位を得た。東京芸術大学非常勤講師を経て、現在、武蔵野音楽大学講師。

## 白水 芳枝 (しらみず よしえ) Yoshie Shiramizu

兵庫県立西宮高校音楽科・東京芸術大学卒業。野村国際文化村財団奨学生としてマンハイム音楽大学および同大学院に留学し、ピアノ・ソロ及びピアノ・デュオ科を最優秀の成績で修了。ドイツ国家演奏家資格を取得。ピアノ・ソロでは全日本学生音楽コンクール高校の部第2位、ピティナ・コンペティションG級銅賞・ソニー賞受賞。ヨーロッパでは、ドイツ・イタリアでの各国際コンクールで最高位賞を受賞。ハノーファー・ショパン協会賞を受賞するなど多くの賞を得た。現在、国立音楽大学非常勤講師。

## プログラムノート

### マ・メール・ロア

友人の子供達のために作曲された近代フランス音楽の傑作。  
連弾コンサートの定番曲。「マ・メール・ロア」は英語で「マザー・グース」。

### モーツァルトのソナタ

柿ナンレルと演奏するために作曲したのは9歳の時。  
3つの楽章は古典的な完成度をみせ、「モーツァルトの恋しみと微笑み」も。

### ショパンの宴奏曲

「序奏・主題と7つの宴奏」まだ16歳の作品にポーランドの民族的色彩は濃い。  
だが「これぞショパン」の華々しい演奏技巧と色合い。

### 揺曳

芸術祭参加を目的に作曲された。全体は3つの部分で構成されている。  
その頃は前衛的な現代音楽が真ん盛り。以来38年、いま卓越したこの素晴らしいスペシャリスト「ドゥオール」を得て演奏される。

### 動物の謝肉祭

曲名の動物などの生態をユーモラスに音で描き、他の作曲家の作品をパロディー化し皮肉をこめる。謝肉祭での内輪の余興のために作曲。  
しかし華麗にして超絶的なピアノの演奏技巧と圧倒的な演奏効果が盛り込まれ、感動的なフィナーレを飾る。